

大項目番号 1	I 首都大学東京の教育研究等の質の向上に関する目標
教育内容及び教育の成果等	1 教育に関する目標 (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標 (中期目標)
	○ 豊かな教養・高度な専門性と社会への対応能力を備えた国際的にも通用する人材を育成するため、カリキュラム・ポリシーに基づき教育課程を編成し、不断に見直す。
	○ 社会ニーズ・学生ニーズに対応した教育を提供するため、他大学や企業等のほか、特に東京都との連携を生かした教育を推進する等、多様な学修機会の確保に努める。
	○ 教育の質の保証と透明性確保のため、ディプロマ・ポリシーに基づき、卒業認定や成績評価に関する基準を明確にし、厳格な評価を行う。

中期目標を確認

中期計画に対する進捗状況を確認

年度	各年度における主な実績	東京都地方独立行政法人評価委員会の主な評価	
		評価	評定・説明
29	【1-01】【平成 30 年度】にカリキュラムの再構築を行う準備を完了させた。 【1-01】TA等を【年間延べ779人】配置した。 【1-01】大学院分野別横断プログラムのパイロットプログラム2件の開講準備を整えた。 【1-01】教育改革推進事業を活用し、各部局で積極的にアクティブ・ラーニングの推進に取り組んだ。 【1-02】1年次の外部英語試験受験率【96%以上(97.6%)】を維持した。 【1-03】現場体験型インターンシップの新規実習先を拡充41件(平成28年度比15件増)した。 【1-05】共通の成績評価基準を導入した。	2	平成30年度の学部・研究科の教育研究組織再編に関して、カリキュラムマップ等の策定やルーブリック評価の導入に向けた取組を精力的に進めた。 アクティブ・ラーニングの推進について、各部局において多様な取組を実施している点が評価できる。学生と教員の両者に対する働きかけが行われている。
30	【1-●】××の検討を開始した。 【1-▲】◇◇を開講し、△人の応募があった。 【1-■】◎◎の受験率【□%】を達成した。		各年度の業務実績評価結果の評定と主な評定説明(コメント)を掲載
31			大項目の主な実績を記載 中期計画期間全体の経過を把握
32			

(1)教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置
 ◇ 教育課程の見直し
 【1-01】① 豊かな教養・高度な専門性と社会への対応能力を備えた国際的にも通用する人材を育成するため、引き続き分野横断的な学びを促す教育を実施するとともに、全部局におけるカリキュラムの再構築を【平成 30 年度】に行う。また、授業におけるTA等を【年間延べ1,000人以上配置】するとともに、アクティブ・ラーニングの導入を推進する。大学院においては、分野横断型(T字型)プログラムを導入する。

【1-02】② 外国語教育室(仮称)により「聞く、話す、読む、書く」の4技能を育成する英語教育プログラムを開発する
 中期計画の通し番号(中期計画No.)を計画先頭にスミカッコで表示

◇ 多様な学修機会の確保
 【1-03】③ 社会ニーズ・学生ニーズに対応した教育を提供するため、企業や都等との連携を生かしたインターンシップ等を実施するなど、多様な学修機会の確保に努める。

各年度の業務実績評価結果の評定と主な評定説明(コメント)を掲載

大項目の主な実績を記載
 中期計画期間全体の経過を把握

<p>【1-04】④ 産業技術大学院大学及び東京都立産業技術高等専門学校と連携し、海外交流プログラムを実施する等様々な分野での相互交流を図る。また、更なる連携を促進するために、法人や法人内の教育研究機関と協力し、課題の検証を踏まえつつ、新たな連携の在り方について検討を進める。</p>	33		
<p>◇ 厳格な成績評価・卒業認定</p> <p>【1-05】⑤ 共通の成績評価基準を【平成 29 年度に導入】す ともに、学修のパフォーマンス評価（ルーブリック等） 導入するなど、厳正な成績評価を実施することにより、 会に対する学生の質保証を促進する。</p>		<p>中期計画の KPI を スミカッコと下線付で表示</p>	

<p>中期計画 No. 1-01</p>	<p>I 首都大学東京の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置</p> <p>◇教育課程の見直し ① 豊かな教養・高度な専門性と社会への対応能力を備えた国際的にも通用する人材を育成するため、引き続き分野横断的な学びを促す教育を実施するとともに、全局におけるカリキュラムの再構築を【平成30年度】に行う。また、授業におけるTA等を【年間延べ1,000人以上配置】するとともに、アクティブ・ラーニングの導入を推進する。大学院においては、分野横断型（T字型）プログラムを導入する。</p>	<p>中期計画はここでも確認可</p>	<p>自己評価</p>
<p>平成30年度計画</p>	<p>業務実績</p>	<p>法人の自己評価</p> <p>S</p>	
<p>(1) 【新規】平成30年度からスタートする新たな学部・研究科において、新カリキュラム・ポリシーに基づく教育を実施する。また、再編成前の学部・研究科におけるカリキュラムも着実に提供する。</p> <p>(2) 【継続】全学共通科目のカリキュラムマップについて、必要に応じて見直し・修正を実施する。</p> <p>(3) 【継続】TA配置人数拡大に向け、配置実績状況調査を行うとともに予算配付方法について検討を進める。</p>	<p>(1) 新カリキュラム・ポリシーに基づく教育の実施等 ⇒【特記事項I-◆参照】</p> <p>(特記事項のポイント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新カリキュラム・ポリシーに基づき○○を実施 <ul style="list-style-type: none"> - ××の提供 - △△の実施 <p>(2) 全学共通科目のカリキュラムマップの見直し <取組事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ○○委員会にて、カリキュラムマップについて見直した。 <p><成果・効果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生アンケート結果に基づき、カリキュラムマップの××部分を△△に更新した。 ・ 学生アンケートで、「内容が分かりやすい」という回答が◇%（対前年度比+◆ポイント）だった。 <p>(3) ティーチング・アシスタント（以下「TA」という。）の配置人数拡大 ⇒【中期計画No. 1-●参照】</p>		

年度計画と取組状況を比較

特記事項に記載した内容の要点を記載

特記事項の通し番号を記載

自己評価「S」、「A」、「C」、「D」の根拠となる部分には下線

取組内容を記載した参照先を記載

I 首都大学東京に関する特記事項

平成 29 年度業務実績評価において、公立大学分科会から対応報告を求められた事項

【教育研究組織再編の多面的な評価と成果の検証】中期計画 No. 1-● 自己評価●

特記事項
I-1

**特記事項の通し番号を追加
項目別実績と様式を差別化**